

ふれあい

主な内容

- 1P. コロナ禍に負けず金上の伝統をつなげる
- 2P. 一中地区作品展示会開催
- 3P. 健康コーナー・私のふるさと
- 3P. 歴史探訪・地域のわだい
- 4P. お庭拝見・私のひとりごと
- 4P. 部会だより

●発行所/ひたちなか市長堀町3-4-1 (1中地区コミュニティセンター内) ☎029-275-2671 ●発行責任者/坂井 久彦 ●編集/広報委員会

コロナ禍に負けず 金上の伝統をつなげる!!

令和3年7月24日(土)夕方、金上会館前(金上山不動尊)の広場において、「金上お囃子会」のお披露目がありました。今までは、金上夏祭りにお囃子の子供たちが山車の上に乗って町内を練り歩きましたが、去年と今年は祭りがコロナ禍で中止となったため、今回はお披露目のみを行いました。来年は、盛大にできることを願っています。



全員集合!



大谷市長も駆けつけてご挨拶



OBも参加



カッコいいお面

お囃子の音がつなくも



「お囃子」伝統をつなげる会
代表 齋藤 信介

私が金上の子供たちとお囃子をやるようになって、9年目になります。妻が小学生の時に始まった金上お囃子会は、それから30年近く続いて、今では夏祭りには欠かせない伝統のひとつになりました。そんな世代を超えてみんなが楽しみにしていた、夏祭りをはじめさまざまな行事が、新型コロナウイルスの影響で中止せざるを得なくなりました。

「こんな時だからこそ、みんなの気持ちをつなぎたい」と思い、子供たちと「疫病退散・無病息災」を願い、演奏させてもらうことになりました。感染対策をした演奏は、慣れない部分もだいぶありましたが、そんな中でも子供たちからは、しっかりとした音が伝わってきました。毎年やる子をはじめ、初めて参加した子も、「この太鼓や笛の音がすべての家に届け!」とばかりに、想いを乗せて囃してくれました。来年もその先も、金上のみんなと共に「音と気持ち」をつなげていきたいと思っています。

プロフィール

金上在住。会社員のかたわら、和太鼓「和奏(わかな)」のリーダーを務める。また、ソロで篠笛奏者としても活動。今年水戸の梅まつりで「チームラボ音楽園光の祭」に参加。県内でのイベントに多数出演し、活躍中。



ス々のイベント『一中地区作品展示会』開催！



今年のコミュニティまつりは規模を縮小して、作品展示を中心に「一中地区作品展示会」と名前を変更し、11月6・7日に行われました。幸い昨年からの猛威を振るっていたコロナ禍が落ち着き、晴天にも恵まれて、久しぶりに1中コミセンが活気あふれる2日間となりました。



コミセン入り口
菊花も、来場者の目を楽しませてくれました！

来場した大谷市長と作品の前で



お楽しみ抽選会で、景品が当たりました♡

野菜即売
コミセン主催「野菜づくり教室」の成果品販売

1中コミセン利用団体と展示作品



ダイヤモンド手編み教室 毛糸でオシャレに♪



一中地区女性学級
「西中根女性セミナー」
化粧石鹸や手提げに
デコパージュ

一中地区女性学級
「はなみずき」
手作りクラフトバッグ
と小物たち



生け花「華」
生花をより美しく
芸術的に



フラワーアレンジメント「花みずき」 カuttingボードや籠にアレンジ



1中コミセン俳句教室 日々の暮らしを言葉に紡ぐ...



折り紙教室「さわやか」
花かごいっぱいの花々
全部折り紙!!



水墨画
「勝田墨遊会」
力作揃い！



書道教室
集うことが
楽しみ～

自治会 一般公募作品

各自治会から、陶芸・写真・洋裁・ちぎり絵・七宝焼き・絵画などの作品がたくさん出品されました。



健康コーナー

食生活改善推進員

を知っていますか？

食を通じた健康づくりのサポートをするボランティアです。

現在ひたちなか市で159名、一中学区では50名が、生活習慣病予防教室、レシピ集の作成などの活動をしています。(レシピ集はコミュニティセンターなどに置いてあります)

特に「お魚を使った食育教室」や「子どもの頃からの減塩」に力を入れています。一緒に、ご自身や家族の食生活のことを見直してみませんか？

Q: どんな活動をしているの？

A: 食に関する様々な活動を行っています。一例として左記の活動を行っています。

親子クッキング R1. 8月



動画でお魚食育教室



チラシの配布などによる健康情報発信



スキルアップのための研修会



Q: このボランティア活動に参加するには？
A: 市健康推進課主催の養成講習会を修了後、食生活改善推進員協議会会員として活動します。

詳しくは、健康推進課にお問い合わせください。
(掲載したQRコードは令和4年1月まで有効)



市のホームページをご覧ください

健康推進課(ヘルス・ケア・センター)

029-1276-5222

私のふるさと

辺地ならではの遊びの真髄

中根自治会

山田 俊

私は、長野県と新潟県の県境になる小さな川まで4キロほど南、長野県側の栄村秋山郷で育ちました。すぐ目の前は、東に苗場山、西に鳥甲山(とりかぶとやま)に抱かれた、溪谷の地です。日本でも有数の豪雪地帯です。子供の頃は4メートル近く積もりました。当然1階から出入りできず2階からになります。家もそのように造られていました。冬は厳しかったです。12月から3月まで道路は閉ざされ「陸の孤島」でした。村人たちのまとまりがないと生きていけないのです。病人が出たら村人総出で搬送しなければなりません。現在その道路は国道に昇格され除雪も行われて、不便さはなくなっています。

高校生の時から親元を離れました。小中学生の頃は家で勉強した覚えはありません。学校から帰ってくるとカバンを家に置き、暗くなる(夕食ごろ)まで外で遊んでいました。学年も違う6人位の地区の仲間です。

遊び道具は今のようありません。すべてお手製です。木を切ったり、削ったり、釘を打ったりという工夫しました。傑作はサクラの木を使ったスケート板と、ケヤキを使ったビー玉転がし板です。その遊び道具は廃校になるまで、中学校に保存されていました。

僻地で育ち、衣食については制約がありました。遊びについては一所懸命だったと思います。懐かしさがこみ上げる...

歴史探訪

天狗党の乱 (2)

1864年、水戸藩内では暴挙を繰り返す「天狗党」を討伐するため、市川三左衛門らの「諸生党」が立ち上がり、一方幕府は、天狗党追討令を出して常陸の国・下野の国の諸藩に出兵を命じました。7月7日、天狗党と諸藩連合軍の戦いが勃発します。

連合軍は下妻近くの多宝院で、天狗党の奇襲攻撃を受けて敗走。水戸へ逃げ帰った市川らは、水戸城に入って天狗党の家族を投獄・虐待しました。これに腹を立てた天狗党は、攘夷の実行(横浜鎖港)より先に、市川らを討って家族を救うことを決め、水戸城下へ入ろうとしますが果たせず、水戸周辺で戦いました。この頃幕府は、若年寄の田沼意尊を追討軍総括に任命し、天狗党追討の態勢を強化しました。

このような状況を知った水戸藩主松平頼徳(松平頼徳)は内乱を鎮静する名目で、支藩である穴戸藩主松平頼徳を名代として水戸へ遣わしました。これには水戸藩・その他から千余人が随行、「大発勢」と呼ばれています。ところが市川らが入城を拒んだため、仕方なく那珂湊に移り、天狗党の藤田小四郎らと共同戦線を張り、市川らと対峙することになりました。当時の那珂湊は水戸藩随一の商業都市でした。田沼意尊は、那珂湊を包囲することを命じ、ここに那珂湊決戦の火蓋が切られて落とされました。秋の収穫時期に那珂湊とその周辺は戦乱明け喜れる修羅場となっていました。10月10日の那珂湊野原での戦いは、各地の戦闘の中で最も激しいものと言われ、双方に多くの死傷者が出ました。

那珂湊に隣接する区域の農民たちの被害は甚大でした。日常の農作業はできず、その上大量の足元をかり出されたり、宿を提供させられたり、その負担の重さは前代未聞。勝田市史によれば、三反田村へは9月から10月下旬までに追討軍の兵員が総勢9,500人も農民方へ宿泊。その滞在延べ人数は10万超え。村に設けられた「かがり火の焚き場」43か所には、延べ人数約5千もの人足がかり出されました。

10月の戦いで「大発勢」千余人が投降。松平頼徳は田沼・市川らの巧みな策謀によって捕らえられ、幕府に幽向されたという理由で切腹。家来は残らず殺害されました。幕府が諸藩に追討を命じたことに加え、諸生党からの攻撃が激しさを増してゆき、天狗党は次第に追い詰められていきます。

参考資料

「勝田市史」(中世編・近世編)
「天狗争乱」吉村昭著 他

次号最終回



十三奉行近くの鶴代にある天狗党・諸生党の首塚

地域のわだい

NHK全国学校音楽コンクール 茨城県コンクール金賞受賞

勝田第一中学校 コーラス部

いつも応援ありがとうございます。
コロナ禍で様々な制限を受けてきた合唱ですが、それでも勝田一中コーラス部員の熱い思いは変わっていませんでした。

コンクールの実施方法も今までとは大幅に異なり、録音審査だったり会場審査では舞台でもマスク着用が義務付けられました。

しかし、部員たちはそんな逆境に

も負けずマスクを着けたまま、そして換気のため開けている窓から風がびゅんびゅんと通る中でも、必死に練習してきました。

その甲斐あって今年度も関東大会まで進むことができました。これは部員全員の努力の賜物でもあります。私たちが支えて下さった皆様のおかげでもあります。

本当に感謝しています。



新入生と一緒に始めたこと

笹野自治会 岡根章五

今年の3月頃、笹野地区民生委員・児童委員仲間の小林さんとの会話。

K: 笹野地区も最近小学生が増え、新入生も大勢いるように聞いていますよ。

O: それじゃ通学に慣れるまで、見守りをやろうか？

K: いいですね！

ということで、4月から学童立哨と学校までの同行が始まりました。

1ヶ月後、朝の帰り道で、『一年生

は可愛いし、朝の散歩と考えれば健康にもいいね』との一言で、その後も続けることにしました。

夏休みに入った時、玄関で小学生から突然、感謝状が読み上げられました。最初は何が起きているか理解できませんでしたが、読み終わった時、私は『ありがとう、嬉しいです』と素直にお礼を言っていました。

現在は、通学途中の中学生や高校生から「おはよう」の声も聞けて、毎朝充実しています。





7月頃から実がなるブラックベリー

遠藤さん宅



柿の木の下で咲く、ツワブキの花

お庭拝見 長松自治会



イチョウの黄葉が青空に映えます



赤い花が満開のサザンカ



綺麗に手入れされたお庭です

石川さん宅



長松自治会倶楽部協の皇帝ダリア

長堀公園

私のひとりごと

真夜中の来客

大平自治会 ありんこ
(ペンネーム)

フェリーで苫小牧から北海道に入って4日目。日高地方の青い海と秋の澄みきつた空を眺めながら海岸線を走り、やがて日が暮れた。さてどこで車中泊しようか。ナビを見て、近くの道の駅に泊まることにした。

食事をして温泉に入り、駐車場の静かな所で眠りに就いた。3時間も過ぎたのだろうか。暑くて目が覚めた。ドアを開け外に出る。涼しい。ほっと一息。しばらくボーッとしていると、車めがけてサッと黒い影が走った。ドキッ！ 面倒が起きたと直感した。懐中電灯を引っ張り出し、車中を覗いたが、異物は見当たらない。そのうち「ニャー」という声。猫が飛び込んだのだ！ 追い出そうにも狭い隙間からなかなか出て来ない。大きな音や声を出して脅かしても効果無し。そのうち鳴き声が消え、静かになった。こちらも眠くなったので、「出て行ったのだろうか」と都合の良い解釈をして寝ることにした。

朝になり何かに起こされた。眠い目を擦り、起き上がると「ギョッ！」足元の布団の上に背中を丸くした猫がちよこんと座っているではないか。黒トラ猫だ。向こうも気付いて「ニャー」と挨拶。「まずい！」と思った瞬間、いっぺんに夢から現実を引き戻された。「おいおい、家を間違えているよ！早く帰るなさい」と説教。可哀そうだがすぐにつまみ出した。食料・貴重品・衣類など幸い異常無し。車中の行儀は良かった。恐らくどこかの飼った猫だったのだろう。「猫好きならもつと可愛がってもらえたらうに、飛び込んだ先が悪かったね、お気の毒様」とひとこと。それからは、ドアを開け放さないよう、注意を払うようになった。



日高昆布の天目干し

部会だより

安全防災部会

コロナ禍のため今回も例年実施していた秋の街頭キャンペーンを一齐には行わず、部会員が個別にチラシを配布するよう変更した。11月6・7日の一中地区作品展示会に合わせて、部会員にチラシを分配。部会員は「横断歩道は歩行者優先」「暗くなったら反射材やLEDライトを身につけよう」のチラシを地域等で配り、交通事故防止を呼び掛けた。



横断歩道は歩行者優先

青少年部会

11月21日、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じ、親子わくわく自然体験事業として、自然観察と木工工作を行った。子供15人を含め42人が参加。講師には茨城県緑化推進機構から5人が来場した。

長堀第3公園に植栽されているクスノキとその防虫効果や、サクラの病気の話など説明を受けた。その後、木工工作。釘を初めて打つ子供がほとんどで、初体験に感動し、本立てやプランターの出来栄に歓声をあげていた。

環境部会

10月2日に地域巡視を実施。一中地区の不法投棄監視地域を3組で手分けして巡回した。メンバーは各組4人で、不法投棄監視員がリーダー。リーダーが廃棄物の多い場所を熟知していたため、要領よくごみ収集ができた。最も多かったのは道路脇に捨てられたペットボトル。車から投げ捨てたものと思われる。収集袋がいっぱいになった。皆で地域をきれいに保つよう心がけよう！



「ニュースポーツガイドブック」の紹介 皆さん、「ニュースポーツ」という言葉を聞いたことがありますか？ ニュースポーツには、グラウンドゴルフ・ゲートボール・ヘルスパレーボール等多くの競技があり、これらは子供から高齢者まで、誰もが簡単に楽しめるスポーツです。競技目的よりもレクリエーションで行われることが多く、適度な運動量で、日頃の運動不足解消や健康の維持・増進として親しまれています。

体育部会

福祉部会

11月29日、部会研修旅行を実施。14人で栃木県真岡市の「そらまめ食堂」を訪問した。ここは、障害者就労継続支援B型作業所」で、県の指定を受け、障害者の仕事をサポートする福祉サービスの食堂。このため普通の食堂に比べて働く人が多いのが特徴。皆さんの笑顔が印象的だった。部会員は3密に注意して行動し、有意義な研修旅行となった。



編集後記

その競技名と概要をとりまとめた「ニュースポーツガイドブック」を一中コミセンと体育部会で各1部ずつ保管しています。また、用具は松戸体育館に用意してあります。地域・サークルのコミュニケーションづくりのために活用ください。



10月28日に写真撮影研修会を行いました。行ききのバスの中で撮影の留意点やノウハウを研修。滝川溪谷と大子町ではそれぞれが工夫を凝らし、景色や人物を撮影しました。今回の研修を今後の広報紙の写真撮影に生かしていきます。新型コロナウイルス感染症が下火となり、一部の部会活動が再開されました。来年は「新型コロナウイルス」流行以前のようないくつかの行事・活動の記事が書けるようになると願っています。

